

平成 27 年度第 2 回 海岸工学委員会 議事録

開催日時：平成 27 年 11 月 11 日（水）18:00～20:00

開催場所：タイム 24 ビル（東京，お台場），第 4 会議室

出席者：間瀬相談役，青木委員長，岡安副委員長，佐々木幹事長，森，渡部，川崎，重松の各小委員長，北野主査，田島，越村，荒木の各副小委員長，有川，池谷，伊藤，入江，太田，大村，的野（岡代理），岡田，小野，柿沼，小竹，小林，斎藤，作野，山形（眞田代理），鈴木，津田，鳥居，松本，水谷，宮武，横木の各委員，小笠原，片山，桐，栗山，後藤，諏訪，高木，武若，松山，山城の各委員兼幹事，下園，原田の各幹事

資料：

- ・ 平成 27 年度第 2 回海岸工学委員会次第（資料 1）
- ・ THESIS-2016（Two-pHase modeling for Sediment dynamIcS）（資料 2）

前回議事の確認

- ・ WEB に公開済み

相談役ご挨拶

- ・ 今年度より間瀬元委員長が相談役に就任された旨紹介され，間瀬相談役よりご挨拶頂いた。

論文集編集小委員会副小委員長の交替について

- ・ 田島委員兼幹事から原田幹事（任期：2015 年 11 月～2017 年 11 月）への交替が報告された。

審議・報告事項

1. 海岸工学論文集第 62 巻発刊状況について（森小委員長，田島副小委員長，佐々木幹事長）

(1) 海岸工学論文集第 62 巻最終審査報告と発刊準備状況

- ・ 第 1 段審査：登録論文数 381 編（過去 3 年：382，403，407 編）
- ・ 審査通過論文数：298 編（+企画セッション（論文無し）2 編）
- ・ 第 2 段審査：通過論文数 292 編（不採択 0 編，辞退 5 編），第 2 段審査以降（不採択 0 編，辞退 1 編），最終通過論文数：292 編
- ・ 海岸工学講演会での講演数：295（292+2（企画論文無）+1（通常号から）
- ・ 論文の取り下げの際には，第 1 段審査時に登録した著者全員の自筆署名が入った文書の提出を求めることとした。

(2) JSTAGE 作業について

- ・ 作業内容について報告がなされ，本年度より製本が廃止され，DVD での発刊となったことが報告された。

- ・ 来年度は最終原稿の提出についてもオンラインで行う方向で検討する。
- ・ 組版を廃止したことによりスケジュールに2週間程度の余裕ができた。この余裕を2次査読期間の延長に充てることが提案され、承認された。また、1次原稿の提出期限の延期の希望も寄せられているので、幹事会や委員会の開催時期を含む論文集編集の全体スケジュールに配慮しながら、その可能性について検討することとし、継続協議とした。
- ・ 以下の課題や確認事項について紹介された。
 - 土木学会論文集 B-2（通常号）への投稿促進策について
 - 英文論文（全文査読）の募集を継続（投稿数 16（22），採択数 12（16））は昨年度。今年度から第一著者の国籍に関する制約を廃止した（日本人からの英語論文投稿は1編のみ）。
 - 論文投稿システムの英語化
 - 英語論文受け入れによる CEJ への影響のモニタリング →今のところ影響なしと判断
 - 講演会のセッションは和英混在を継続
 - 海岸工学講演会の活性化
 - 昨年度新設したショートセッションは企画セッションに統合・継続
 - 企画セッションでは口頭発表のみ（アブストラクトのみ）の研究発表を募集（2編採択）
 - 通常論文の質の維持と学際分野の強化

(3) その他

- ・ 題目・著者変更ルールについての確認・周知
 - 題目と著者の変更は基本的に認められない。特に著者の変更は査読者の割り当てに影響するため認められない。ただし、著者所属の変更は問題ない。
- ・ 通常号および CEJ の発表枠の確保を継続する。
- ・ DVD での発刊を継続する。著者負担金 36,000 円，論文集 DVD のみの販売は 3,000 円。

2. 第 62 回海岸工学講演会企画 session について（武若委員兼幹事）

- ・ テーマ：海岸工学分野における気候変動への対応
- ・ 11 月 12 日（木），東京都江東区青海・タイム 24 ビル【ホール 1】
- ・ 企画セッション（武若，横木）
 - 【前半】 14:40－16:00：趣旨説明後，7 名の講師による発表。
 - 【後半】 16:10－17:30：水工学分野における気候変動研究の動向（中北水工学委員長）の公演後，総合討論

3. 第 63 回海岸工学講演会企画 session について（重松小委員長）

- ・ 東日本大震災と環境をテーマに開催されることが報告された。

4. 海岸工学論文賞および同論文奨励賞の候補論文について（佐々木幹事長）

- ・ 海岸工学論文賞および同論文奨励賞の候補論文選考のルールと選考方法（前年度と変更なし）を確認し承認された。また、選考のプロセスについても確認し、承認された。その結果、以下の通り論文賞および奨励賞が決定された。
- ・ 論文賞
 - 題目：沿岸災害リスクの評価に基づく海浜の確率的維持管理手法，著者：伴野雅之・栗山善昭・中川康之・橋本典明
 - 題目：津波波力および建物耐力の確率分布を考慮した建物被害確率予測法に関する研究，著者：泉宮尊司・山森隼人
 - 題目：海岸堤防の粘り強さ向上による減災効果の感度分析，著者：渡辺国広・姫野一樹・榊原弘・有村盾一・八木裕子・越智達郎・諏訪義雄
- ・ 奨励賞
 - 題目：非静水圧を考慮した鉛直積分型堤防越流モデルの開発，筆頭著者：池澤広貴（共著：下園武範・佐藤慎司）
 - 題目：津波漂流物の衝突力推定における軸剛性モデル，筆頭著者：高畠大輔（共著：木原直人・宮川義範・甲斐田秀樹・柴山淳・池野正明）
 - 題目：北太平洋における冬季の波候と大規模循環場の将来変化予測，筆頭著者：志村智也（共著：森信人・Mark A. Hemer・安田誠宏・間瀬肇）

5. 海岸工学論文集の将来検討について（北野主査）

- ・ 今年度より組版が廃止されたことが報告された。原稿フォーマットの完成度の著しく低く業者による組版が必要な原稿は見られなかった。
- ・ 原稿フォーマットは土木学会論文集通常号に統一するが、ある程度のゆらぎは許容することとしている。
- ・ 本年度、企業広告の掲載は先着順としたが、来年度以降については講演会プログラムの掲載方法を検討し、広告数を増やす方向で検討する旨報告された。
- ・ 質疑：Q：最終原稿提出の際に誤って前バージョンの原稿を送ってしまった場合のチェックはあるのか。→ 今年度は印刷会社の方で最終原稿の体裁および投稿システム上の題目、著者と一致しているかをチェックした。来年度からは最終原稿のWEBでの投稿を予定しているため、投稿者が確認できるようになる。著者には投稿原稿を確認することを周知する。
Q：原稿のWEB掲載時期を早めることが可能であるがどうするか。→ DVDの配布と同時期にWEBにアップすることとした。

6. 第62回海岸工学講演会の実施状況について（下園幹事）

- ・ 参加経過人数、および懇親会申込者数が報告された。

7. 第63回、第64回海岸工学講演会の開催（会場など）について

- ・ 第 63 回海岸工学講演会（大阪）の準備状況（荒木副小委員長）
 - 実行委員会：間瀬 [実行委員長]（京大），荒木 [幹事]（阪大），後藤・森・原田・安田・五十里（京大），重松・遠藤（大阪市立大），内山（神戸大），辻本・柿木（神戸市立高専），川崎（株）ハイドロソフト），青木（阪大）
 - 後援（予定）：国交省近畿地方整備局，大阪府，大阪市
 - 日程：2016 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）
 - 会場：大阪大学中之島センター（北区中之島）
 - 懇親会会場：未定（周辺のホテル等）
 - 見学会（予定）：A. 大阪港・神戸港（定員 25 名程度）B. 津波・高潮ステーション，および安治川水門
- ・ 第 64 回海岸工学講演会（北海道）の準備状況（渡部小委員長）
 - 実行委員会：山下 [実行委員長]（北大），渡部・猿渡（北大），宮武（函館高専），中島・木岡・大塚（寒地土研）
 - 後援（予定）：北海道開発局，寒地港湾研究技術センター，北海道，札幌市
 - 日程：2017 年 10 月 25 日（水）～27 日（金）
 - 会場：TKP 札幌駅カンファレンスセンター（北 7 条西 2 丁目）
 - 懇親会会場：未定（周辺のホテル等）

8. Coastal Engineering Journal について（渡部小委員長）

- ・ Impact Factor が 2.25 となったことが報告された。
- ・ 特集号について
 - 次号，Coastal Disasters due to Typhoon Haiyan (Organizing Editor: Yoshimitsu Tajima, The University of Tokyo)は，2016 年 3 月に出版予定。
 - 次々号，Special Issue on the 5th anniversary of the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami (Organizing Editor: Tomoyuki Takahashi, Kansai University) は，38 編のアブストラクト投稿から 31 編採択であることが報告された。
 - 次々次号，Special Issue of Climate Impact on Coastal Engineering (Organizing Editor: Nobuhito Mori, Kyoto University)が紹介され，2017 年 1 月 1 日がアブストラクト締め切り。
- ・ 論文の投稿，および出版状況についての説明があり，台湾，中国からの投稿が増えていることが報告された。

9. 研究小委員会の活動について（広報，沿岸域，津波，波動モデル，減災アセスメント 各小委員長）

- ・ 広報小委員会（川崎小委員長）
 - メンバー，および活動内容が報告された。

- 委員会サーバーのソフトウェア更新の必要性について案内があり，来年 2 月までに検討し，次年度の論文投稿に間に合うよう更新する方針であることが報告された。
- ・ 沿岸域（重松小委員長）
 - 特になし。
- ・ 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会（越村副小委員長）
 - メンバー，および活動内容について説明が行われた。
- ・ 波動モデル研究小委員会（柿沼小委員長）
 - 九州大学応用力学研究所共同利用研究集会に採択され，波動モデルに関する研究集会が開催される旨の報告があった。
 - 本研究集会の主催を土木学会海岸工学委員会とさせていただきたいとの要望があり，了承された。
- ・ 減災アセスメント小委員会（岡安小委員長）
 - メンバーに有川委員が加わったことが報告されると共に，委員会の活動状況について報告があった。

10. 第 51 回・第 52 回水工学に関する夏期研修会（B コース）について

- ・ 第 51 回（2015 年度）実施報告（鈴木委員）
 - 2015 年 8 月 24 日（月）～25 日（火）に横浜国立大学 理工学部講義棟で「沿岸域の防災と減災」をテーマとして開催され，参加者数は 79 名（A コースは 80 名）であった。
 - 参加者のアンケート結果の紹介があった。
 - これまでもスライドのコピーを配布してほしいとの要望が多数あり，今年度は賛同の得られた講演者に pdf を提供いただき，受講者限定で配布した。再配布は許可しない，個人の利用に限る，等何らかのルール整備が必要で，引き続き要検討。
- ・ 第 52 回（2016 年度）水工学に関する夏期研修会について（小笠原委員兼幹事）
 - 開催場所：秋田大学手形キャンパス
 - 開催日：8 月 22 日～23 日の 2 日間
 - 開催テーマ，河川・水文コース：地球環境変化時代の水防災（案），海岸・港湾コース：東日本大震災後の津波防災（案）

11. その他

- ・ APAC について（青木委員長）
 - APAC 開催での様子が報告された。日本人参加者は約 30 人。次回はフィリピン。
 - APAC の新体制について報告がなされた。Council：佐藤（任期なし），青木（海岸工学委員長枠，任期 4 年・再任不可）。Int. Steering Committee：武若（幹事枠，任期 4 年・再任不可），柴山（留任，任期 4 年・再任可），越村（任期 4 年・再任可），田島（任期 4 年・再任可）。

- ・ 「原子力発電所の津波評価技術」の改訂に伴う意見公募の実施について（松山委員兼幹事）
 - 原子力土木委員会・津波評価小委員会では、「原子力発電所の津波評価技術」の2016年度版としてまとめる予定。改訂版を発刊するにあたり、意見を募集することが報告された。案内はCECOMにて連絡。
- ・ 国際会議 THESIS-2016 について（後藤委員兼幹事）資料2
 - 国際学会の案内が紹介された。アブストラクト締め切りは来年2月12日。
- ・ 海岸工学講演会におけるマスコミ対応について（佐々木幹事長）
 - 講演会初日の11月11日（水）第1セッション、第2会場の講演でテレビ取材がなされた旨報告された。今後、他学会の例を参考にし、簡単な指針を整備することが提案され、了承された。4月の幹事会での提案を予定する。
- ・ 今後の委員会活動について（青木委員長）
 - 地域の課題に取り組む研究活動を対象に、海岸工学委員会の枠組みの中での活動を希望する地域グループの支援を考えたい。例えば、各地域の活動を束ねる小委員会を設置し、前日シンポジウムで議論するといったことを通して、地域の活動の活性化と総合化を図るといったことが考えられる。具体的な方策について検討提案する旨案内があり、了承された。

以上
(議事録：鈴木)